植物 矿 学 菜 素能 言志. THE JOURNAL OF JAPANESE BOTANY

第十一卷 第十一號 (通卷第百十一號) 昭和十年十一月發行

うらぼし屬ノ形態學的觀察 (其二)

小 倉 謙

Y. OGURA: Morphologische Beobachtungen der Gattung Polypodium (II)

第二、 葉

甲、葉 柄

葉柄ノ基部ハ根莖=關節スルヲ以テ落葉後モ其基部ヲ根莖面=小ナル隆起トシテ認メウベシ。コレ Polypodium 屬ノ特徴トシテ 擧ゲラレタル點ナレドモ、コノ性ヲ明カニ示サベル種アリ、特ニ小形ノ & Eupolypodium ニ於テハ葉柄ガ 永ク莖面=附着スル事多シ。SMITH ハ關節ノ明カナラザル種ヲ § Ctenopteris トシテ明カナル關節ヲ有スル種ト區別セシガ、コノ區別ノ困難ナル事多シ。早田教授ノ § Micropolypodium モ關節ヲ有セザルヲ特徴ノートス。

葉柄ハ葉身トノ界ノ明カニ區別セラル、場合ハ寧ロ尠ク、葉身ハ葉柄ノ兩側ニ流レ來ル事多シ。而シテコノ流レノ徐々ナル場合ニハ殆ド葉柄ヲ認メザルニ至ルコトアリ。

甲ノー、 葉 柄 ノ 毛

葉柄及葉身=ハ幼時鱗毛又ハ單純毛アリテ幼葉ヲ保護スルモノナレドモ、成長ト共ニソノ多クハ脱離シ、成長後ニハ之ヲ認メザルニ至ルモノ普通ナリ。然レドモ葉ノ成長後尚ソノ一部ヲ残留スル場合、或ハ密生シテ永ク葉面ヲ蔽フ場合アリ。特ニ單純毛及針毛ハ比較的永續性アリ。

先**ヅ**葉柄ニ於ケル毛トシテ鱗毛・單純毛・針毛ヲ區別スベク、ソノ構成ハ莖面ニアルモノニ類スレド、スベテ小形ニシテ單調ナリ。

イ、鱗毛。 鱗毛ハ多クハ幼時ノミニアリテ成長ト共ニ脫離シ、只僅ニ葉柄面

ニ存スルノミ。之ヲ心臓状・楯狀ノ二種ニ分ツベキ事莖ノ鱗毛ノ場合ノ如ク、莖面ニ楯狀鱗毛ヲ有スル種ハ葉柄面ニモ同型ノ鱗毛アリ、心臓状鱗毛ノ場合モ亦然リ。只ソノ大サハ莖面ニ於ケルモノヨリ遙ニ小形ナリ。又葉柄ニ鱗毛ヲ有スル種ハ葉身面ニモ同形ノ鱗毛アリ、後者ヨリ大形ナリ。即チ葉柄ノ鱗毛ハ莖ト葉身面トニ於ケルモノノ中間型ナリ。葉身ノ鱗毛ニ就キテハ後ニ述ブル處アルベク、故ニ兹ニ詳細ヲ略スベシ(葉身ノ項零照)。

ロ、**單純毛**。 單純毛ハ敷細胞ガー列ニ並ベル短小ナルモノニシテ薄膜ナリ。 比較的永續性ニシテ、葉柄ニコノ種ノ毛ヲ有スル種ハ葉身ニモ之ヲ具有シ、且 兩方ニ於ケル構成ヨク一致スルヲ以テ兹ニ詳細ヲ略スベシ。又葉身ニ特異ノ腺 毛ヲ有スル種ハ葉柄ニモ同形ノ腺毛ヲ有ス(葉身ノ項参照)。

ハ、針毛。 針毛ハ永續性ニシテ § Eupolypodium ノミニアリ、ソノ構成ハ 葉身上ニ於ケルモノニヨク一致ス(葉身ノ項參照)。

以上三種ノ毛ノ中、同一種ニテ二種ヲ共有スルモノアリ。例へバ、單純毛ト針毛トヲ有スルモノ(例、P. Reinwardtii)、鱗毛ト單純毛トヲ有スルモノ(例、P. plumula, P. cinerascens)アリ。P. Gorgo ハ長キ褐色ノ針毛ヲ叢生シ、ソノ間ニ數細胞ヨリ成ル絲狀毛アリ、ソノ頂細胞ニ白色體ヲ含ム。

甲ノ二、葉柄ノ内部構造

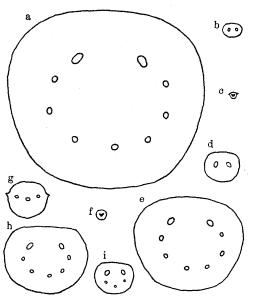
葉柄ノ横斷面ハ他ノ羊齒類ノ如ク楕圓形=近ク、ソノ外圍=厚膜組織層アリ、ソノ中=中心柱條ノ環アリ。横斷面=於ケル大キサハ種=ヨリテ著シキ相異アリ、且同一ノ葉柄=於テモ部所=ヨリテ相異アリ。概シテ根莖ノ大ナルハ葉柄モ太ク、最大ナルハ基部=於ケル横徑 10 cm =達シ(例、P. decumanum)、最小ナルハ 0.5 mm =及バズ(第8圖)(例、P. Glaziovii, P. repandulum)。葉身ノ葉柄基部=向ヒテ長ク流ル、モノ=於テハ葉柄ノ基部ノ横斷面=於テ兩側ノ小突起トシテアラハル(同圖 g)(例、P. dictyop!eris, P. repandulum)。

イ、厚膜組織、厚膜組織ハ表皮下=アル鞏固組織=シテ、ソノ厚サハ概ネ葉柄ノ太サ=比例スルモノノ如ク、葉柄ノ全周=アリト雖モ、ソノ兩側=於テ僅カ=遮ラル、所アリ。コレ葉柄ノ兩側=アル側線ノ部=アタル。蓋シ氣孔ハコノ側線上ノミ=アリテ、ソノ他ノ部=見ズ。故=コノ側線ノ下=於テ厚膜組織層ノ中斷セラル、ハ通氣=關係スルモノトイフベシ。小形ノ \$ Eupolypodium ノ多クノ種=於テハ葉柄モ細ク、コノ組織層モ 繊細=シテ寧ロ中心柱環=近ク之ヲ包圍スルガ如キ關係アリ(例、P. zeylanicum, P. caespitosum, P. setosum)。

ロ、中心柱。 羊齒類ニ於ケル葉柄中心柱ノ排列ニツキハTHOMAE, PARMEN-

TIER, BERTRAND-CORNAILLE, PELOURDE 等ノ研究アリ。コノ排列ノ様式ハ多型

ナレドモ Polypodium 屬ニテハ 概シテ單純ナリ(第8圖)。中心 柱分柱ハ葉柄中ニ於テ互ニ分離 スルモノニシテ、ソノ數ハ葉柄 ノ大キサ及ソノ位置ニョリテ相 違シ、多キ時ハ基部ニ於テ十個 內外ヲ算シ (例、P. aureum, P. decumanum). 勘キトキハ三個 (例, P. loxogramme, P. perakense), 二個 (例, P. ensiforme, P. tectum, P. rostratum, P. soridens), 或ハー個 (例、P. caespitosum, P. oodes) = 過ギズ (第8圖)。數條以上ヲ示ス場合 ニハ略圓弧狀ニ排列シ、上面ノ 一對ハ特ニ大形ニシテソノ間ハ 稍隔タレリ。コノ排列ノ葉柄中 ニ於ケル變化ハ乾燥標本ニテハ 詳細=知り難シト雖モ、或ルニ 三ノ生品ニテ調査セシ所ヨリ察 スレバ、葉柄ヲ上方ニ溯レバ相 隣レル各分柱ハ互ニ離合シツ、



第8圖 葉柄ノ橫斷面ニ於ケル形狀・大キサ・中心 柱ノ排列ノ比較 (×4)

- a. P. decumanum WILLD.; b. P. trifurcatum L.; c. P. repandulum METT.; d. P. lycopodioides L.; e. P. Moseri Chr.; f. P. Glaziovii Bak.; g. P. dictyopteris METT.; h. P. macrodon Hk.;
- g. P. dictyopteris METT.; h. P. macrodon Hk.; i. P. plesiosorum Kze.

ソノ數ヲ減ズレドモ、上面一對ハ常ニ他ョリ大キク、互ニ相近ヅキ中央上面ニテ癒合シ、之ト前後シテ下面ノ數個モ合一シ、遂ニ上面ノト癒合シテー個ノ中心柱トナル。三個ノ分柱ョリ成ルトキハソノ前者ノ簡單ナル場合即チ下面ノ分柱ノー個ナル場合ニ相當ス。二個ノ分柱ョリ成ル場合ハコノ二個ハ前記ノ上面ノ一對ニアタリ、下面ノ小分柱ヲ缺ク場合ニシテ、之ヲ上方ニ辿レバニ個ハヤガテ癒合シテートナルベシ。一個ノ分柱ョリ成ル場合ハコノ二個ノ初メョリ癒合セル場合ニ相當ス。蓋シ分柱ノ數ハ葉柄ノ太サニ略比例スルモノノ如ク、從ツテコレラハ結局同一型ノ中心柱型ニ歸セシメ得ルガ如シ。即チコレ THOMAEノ所謂うらぼし型 (Polypodientypus) ニ相當ス。

分柱ノ排列上稍越ヲ異ニスルハ §§ Loxogramme ニシテ、分柱ハ二乃至數條

アリ、極メテ達キ弧即チ直線=近ク排列ス (第八圖 g)(例、P. loxogramme, P. iridifolium, P. perakense, P. scolopendrium, P. Blumeanum, P. Raciborskii)。 各分柱ノ周圍ニハ黑褐色ノ層ヲ見ル事普通ニシテ、コレ分柱ヲ包ム細胞層ノ 内面ノ細胞膜ノ着色セルニ因ルモノニシテ羊歯類ニ一般ニ見ラル、所トス。

乙、葉 身

葉身ハ單葉型ョリ複葉型=至ル各種ノ形狀ヲ呈シ、ソノ大キサモ亦種=ョリテ大イ=異レリ。古來葉脈ノ狀態・胞子嚢群ノ形狀・毛ノ有無等ハ分類上ノ標準ノ主眼トセラレシ所=シテ、多數ノ亞屬・節ノ設立セラレシモ主トシテ葉身ノ狀態=因レリ。故=葉身ノコレラノ事=闘シテハ古來文獻尠カラズ。以下予ノ觀察=基キテコレラ=ツキ簡單=論評ヲ與ヘントス。

乙ノー、葉 脈

葉脈ハ甚ダ多型ニシテ 他ノ羊歯類一般ノ如ク 分類上ノ 根本的標準トシテ 最 モ主要視セラル、所ナリ。而シテ Polypodium 屬ヲ數亞屬ニ別ツハコノ 葉脈ノ狀態ニ基クモノニシテ、古來ノ分類學書(例、Presl 1836, Fée 1850-52, Mettenius 1856, 1857, Hooker-Baker 1874, Luerssen 1889, Christ 1897, Diels 1902) ニ詳細ニ記載或ハ圖解セラレシ所ナリ。殊ニ Mettenius ハ各種ノ葉脈型ヲ詳細ニ比較シテソノ間ニ中間型ノアル事ヲ論ゼリ。予ノ觀察ノ結果モ彼ト略一致スルヲ以テ今兹ニ詳シク繰返サズ、只概要ヲ記セントス。

Polypodium 屋ノ葉脈ヲ二大別シテ游離スルモノト癒合スルモノト=區別スベシ。前者ハ葉脈ガ互=相癒合スル事ナクシテ常=先端ノ游離スル型=シテ を Eupolypodium 即チ狭義ノ Polypodium ノ特徴ナリ。而シテ脈ノ分枝狀態ニョリ Mettenius² ノ所謂 Nervatio caenopteridis, N. ctenopteridis, N. eupteridis 等ヲ區別シ得ベシト雖モ、コレラノ間=ハ中間型アリ、且又癒合葉脈ヘノ中間型ヲモ認ムベシ。

癒合葉脈ハ葉脈ノ枝ノ互=癒合シテ網狀ヲナス場合=シテ、之= Nervatio marginariae, N. goniophlebii, N. eyrtophlebii, N. phlebodii 等ノ特異ナル者アリ、前二者ハ § Goniophlebium ノ特徴、第三ハ § Campyloneuron ノ特徴、第四ハ § Phlebodium ノ特徴トシテ用ヰラレシ所=シテ、ソノ他ノ網狀脈ヲ有スルモノハ § Pleopeltis ト總稱セラレ、主= Nervatio doodyae, N. anaxeti, N. drynariae 等=別ツベシト雖モ、コレラノ間=ハ中間型アリ、又屢不規則アリテコレラノ間=絶對的ノ區別ナキハ既= METTENIUS ノ指示セシガ如シ。

P. vulgare ハ歐洲 = 産スル Polypodium 属ノ唯一ノ種ニシテ該屬ノ代表者 タルノミナラズ、§ Eupolypodium 即手游離脈ヲ有スルモノノ代表者タリ。然 ル= CHRISTENSEN² モ觀察セシ如ク、脈ノ先端ガ必ズシモ游離セズシテ半バ或ハ完全=他ト癒着スル= 至ル事アリ。斯クノ如ク癒合スル傾向ノ固定セルハ § Goniophlebium ノ特徴ナルヲ以テ、P. vulgare ノ場合ハ § Eupolypodium ト § Goniophlebium トノ中間型トモ見做シ得ベク、CHRISTENSEN ハ寧ロ"freeveined Goniophlebium"=屬スベキモノトサへ稱セリ。斯ノ如キハ獨リコノ種ニ止ラズ、他ノ種=モ屢見ラル、所=シテ(例、P. cinerascens)、コレ葉脈ノ諸型=推移型アルヲ示セルー例ナリ。ソノ他ノ例=ツキテハ今兹=之ヲ略スベシ。

兹=特筆スベキハP. flavellibenium =シテ、ソノ葉ハ殆ド圓形乃至腎臓形ヲナシ、葉脈ハ葉柄上端ョリ叉分シテ明カナル中肋ヲ認メズ。コレPolypodiumB月他ノ種=見ザル特性トス。

乙ノ二、葉身ノ毛

葉面=於ケル毛ハ幼時多ケレドモ、成長ト共=脫離スルモノ多シ。然レドモ 成長後尚ソノ一部ヲ殘存スル場合アリ。コノ毛=ツキテハ或程度迄分類ノ標準 トシテ用ヰラレタリ。毛ヲ三型=大別スベク、ソノ構成ノ要領ハ根莖ノ毛トー 致スレドモ、海=小形=シテ日單純ナリ。

イ、**鱗毛**。 葉身=鱗毛ヲ殘存スルハ寧ロ尠ク且ソノ量尠シト雖モ、中=ハ甚 グシク葉面殊=裏面=鱗毛ヲ密生スル事アリ(例、P. polypodioides, P. furfuraceum, P. thyssanolepis)。コレラノ鱗毛ノ密生スル種ハ § Goniophlebium 中=多キヲ以テ、SMITH ハ該亞屬中ノコノ性ヲ 具有スルヲ特= §§ Lepicystisトナセリ。然ル=、DIELS ハ之ヲ擴張シテコノ性ヲ有スル總テノ Polypodium 屬ノ種ヲ Lepicystis 屬トセリ。然ル=一方 § Marginaria ハ Nervatio marginaria ヲ有スルヲ以テ設ケラレタルモノナルガ、其多ク=鱗毛ヲ有スル故、CHRISTENSEN ハ鱗毛ヲ有スル種ヲ § Marginariaトナセリ。元來 § Lepicystisニ屬スルモノトシテ擧ゲラレタル種=ハ可成リ多量ノ鱗毛ヲ葉面=見ルモ、尚コレ=擧ゲラレザル種=シテ可成リノ鱗毛ヲ有スルモノ尠カラズシテ、ソノ多寡ヲ區別スル事困難=シテ § Lepicystis ノ限界亦嚴然タルモノ=アラズ。

蘇毛ヲ別チテ根莖ノ場合ノ如ク心臓狀及楯狀トナスベク(第 9 圖)、前者ハ 根莖ニモ心臓狀鱗毛ヲ有スル種ニ(例、P. subamoenum, P. laevigatum, P. murorum, P. typicum, P. sporadolepis)、後者ハ根莖ニ楯狀鱗片ヲ有スル種ニ (例、P. piloselloides, P. glaucophyllum, P. lanceolatum, P. polylepis)アリ。 然レドモ兩者ノ區別ノ困難ナル場合、即チ中間型ヲ示ス場合アリ(例、P. musifolium P. angustum)。又根莖ト葉トニ於テソノ型ヲ異ニスル事アリ、例ヘバ P. brasiliense, P. fraxinifolium =於テハ根莖上=楯狀、葉上=心臟狀ノ鱗毛 アル事多シト雖モ尚ソノ中間型アリ。

鱗毛ノ大キサハ 遙ニ 根莖上ノヨリ 小形ニシテ 最大ナルモノニ於テモ長サ 6 mm =過ギズ (例、P. glaucophyllum)。ソノ形狀亦種=ヨリテ著シク異リ (第 9 圖)、概シテ披針形ナレドモ中ニハ卵形乃至楕圓形(例、P. glaucophyllum, P. loriceum) ノモノアリ。又邊緣ノ全圓ナルモノ、鋸齒狀ナルモノ等根莖ノ



第 9 圖 葉身ノ鱗毛ノ形狀及大キサノ比較 (×25)

a. P. glaucophyllum Kze., b. P. furfuraceum Schl.-Cham.; 上ノ鱗毛及 P. falcac. P. typicum Fée;

d. P. vaccinifolium Langs.;

e. P. pteropus Bl.; g. P. sporadolepis KZE.;

f. P. lepidopteris Kze.; h. P. fallax Schl.

邊ノ凸凹アル場合ニ ハ本體ガ小形ナル故 ニ星狀 ノ如キ奇形ヲ 呈スル場合アリ(例、 P. furfuraceum, P.vaccinifolium), P. furfuraceum ニ於テ ハ中肋及大ナル側脈 上ノ鱗毛ハ稍大形ノ 廣披針狀ナルガ、他 ノ葉面ニアルハ小形 ニシテ突起アリテ星 狀ヲ呈ス(同圖b)。 P. cyrtolobum ノ脈

ria ノ葉面ノ 鱗毛ハ 1mm 位ノ小形ノモ

ノニシテ、ソノ基部ハ心臓狀ナラズシテ寧ロ羽狀ナリ。P. squamulosum ノ葉 面ノ鱗毛ハ根莖上ノモノノ如ク細長キ側方突起アリト雖モ、本體ガ退化スルタ メ甚ダシキ時ハ恰モ柄ヨリ數條ノ突起ヲ出ス事くもひとでニ類スルモノアリ。

鱗片ノ附屬トシテ通例ソノ頂ニ腺細胞アリ、根莖ニ述ベタルガ如キ觀ヲ呈ス。 台腺細胞ハ鱗毛ノ側邊ニモアリ(例、P. glaucophyllum, P. nematorhizon, P. musifolium)。P. fuscopunctatum ノ中肋上=長サ2mm 內外ノ卵形ノ楯狀鱗 毛アリ、ソノ周リニ數個ノ腺細胞ヲ有ス。然ルニ葉面ニハ甚ダ小形ノ圓盤狀ノ 鱗毛アリ、褐色ヲ呈シ、少數ノ細胞ヨリ成リ、ソノ周リニ 數個ノ 腺細胞アリ。 § Eupolypodium ニハ鱗毛ヲ有スルモノ尠ク、從ツテ根莖ニ見シ如キ針狀突起 ヲ有スル鱗毛ヲ有スル種ヲ見ズ。

根莖ノ鱗毛ニ屢見ラレシ褐色ノ絲狀突起ヲ有スルモノハ、假令根莖ニアルモ 葉面 = 見ズ、只一種 P. ptero pus ノ葉ノ葉脈上 = アリ (第9圖 e)。 而シテ葉 面ニアルモノハ鱗毛本體退化シテ絲狀突起ガ特ニ著シ。

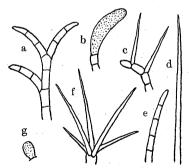
鱗毛ノ細胞膜ノ構成ハ根莖ノ鱗毛トヨク一致ス。即チ根莖鱗毛ノ細胞膜ノ厚 クシテ明瞭ナル場合ハ葉面鱗毛モコノ傾向アリ(例、P. lachnopus, P. persicifolium)、根莖鱗毛ノ細胞膜ノ不明瞭ナルトキハ葉面鱗毛モ亦然リ(例、P. loriceum, P. crystalloneuron)。然レドモ葉面鱗毛ハ小形ナルタメ分化ノ傾向尠ク、 根莖鱗毛ニ中肋ノ如キモノヲ見ル種ニテモ葉面鱗毛ニコノ傾向ナシ

ロ、單純毛。 單純毛ハ比較的多數ノ種ノ葉ニアリ、ソノ構成簡單ニシテ數個 ノ細胞ガー列ニ並ベルニスギズシテ、薄膜ニシテ落チ易シ。尚單純毛ト鱗毛ト ヲ共有スル場合アリ、コノ時ハ後者ハ稀ニシテ葉脈上殊ニ中肋上ニアリ、前者 ハ葉面=アリ (例、P. lachnopus, P. Lindbergii, P. filicula)。

單純毛ニハ尙種々變化セルモノアリ(第10圖)。即チ(一)毛ガ分枝シテ枝狀 ヲナスアリ(同圖 a)(例、P. kyimbilense)、(二) 先端細胞ガ腺タル腺毛狀ノモ ノニ於テ該細胞ガ殊ニ大形ナルアリ (同圖 b)、小形ノ § Eupoly podium ニアリ テ屢 §§ Adenophorus ト稱セラレタル種 (例、P. tamariscinum, P. hymenophylloides) 以外 = モアリ (例、P. subscabrum, P. Merillii, P. corticolum)、 P. Merillii, P. corticolum ニテハーツノ細胞上ニニ三個ノ腺細胞ヲ見ル事アリ。

(三)腺細胞ガ短小ニシテー二個ノ柄細胞ノ 頂ニ位スル事前者ニ類スレドモ、該細胞中 ニハ白色ノ粉狀體ヲ含ミ(例、P. albidum, P. curvatum)、又柄ガ甚ダ短ク殆ド無柄ナ ル事アリ(同圖 g) (例、P. argyratum)。

ハ、針毛。 針狀毛ハ § Eupolypodium 中ニ可成リ廣ク分布スルモノニシテ永續性 アリ且可成リ密生スル事アリ。スベテ單細 胞ニシテ通例濃褐色ヲ呈シ甚ダ長ク、2mm 以上=達スルモノ多ク(同圖 d)、時= 3mm 以上=及ビ (例、P. ornatissimum, P. sericeo-lanatum)、主トシテ葉ノ裏面及邊緣= 多ク、尚表面ニモ見ル事アリ。然ルニ尚數 LINDL; f. P. pseudaustrale FOURN; 個ノ針ガー個ノ細胞上ニ叢生スル場合(同



第 10 圖 葉身ノ毛ノ形狀及大キサ ノ比較 (×50)

a. P. kyimbilense Br.; b. P. tamariscinum Klf.; c. tenuiculum Fée; d. P. subfalcatum Bl.; e. P. siccum g. P. argyratum Bory.

圖 f) (例、P. pseudaustrale, P. muscoides, P. cultratum)、又絲狀細胞列ノ側 方=針ノ着生スル場合 (同圖 c)(例、P. tenuiculum, P. Schenkii, P. cryptosorum, P. lividum) アリロ

乙ノ三、葉身ノ構造

葉身ノ構造ハ乾燥標本ニテハ充分之ヲ知リ難シト雖モ生品ト比較シテソノ大要ヲ知ルベシ。

- イ、排水組織(Hydathode)。 排水組織ハ殆ドスベテノ種=見ラル、モノノ如シ。之ハ葉ノ表面=アル小窪=シテ肉眼ヲ以テモソノ存在ヲ認メ得ベシ。常ニ葉脈ノ終端部=アリ、之ヲ表面及斷面ヨリ見レバ表皮細胞ヨリ遙カ=小形ノ細胞ヨリ成リ、ソレラノ間=ハ孔又ハ隙ヲ見ズ。即チ葉脈ヨリコノ細胞列ヲ透シテ排水スルモノナリ。斯ノ如キハ獨リ Polypodium 属ノミ=存スル=アラザルヲ以テ、之ヲコノ屬ノ特徴ト見做シ難シ。コノ小窪=屢蠟狀ノ白キ薄層ヲ見ル事アリ、恐ラク排水セラレタル水分中=含マレシ物質ガ乾燥シテ附着セルモノナルベシ(例、P. platyphyllum, P. ornatissimum)。
- 中、葉肉。 葉肉ノ厚サハ種=ヨリテ可成リノ差アリ。(一) 薄キ時ハ殆ド分化ナキ細胞ヨリ成リ (例、§ Eupolypodium ノ大部)、(二) 厚キ時ハ表裏=ヨリテ多少細胞ノ分化アリテ柵狀組織ト海綿組織トヲ區別スベク (例、P. polypodioides, P. incanum)、(三)又表皮下ノー二列ノ細胞層=葉線粒ヲ含マズシテ貯水組織タルモノアリ (例、P. vaccinifolium, P. squamulosum, P. soridens, P. heterocarpum)、 時=コノ組織厚クシテ葉ノ牛ノ厚サヲ占ムル事アリ (例、P. caudiforme, P. Elmeri)、(四)又葉肉細胞間=特=著シキ間隙アリテ全ク海綿狀ヲ呈スルモノアリテ乾燥標本=テモ著シク吸水ス (例、P. Blumeanum, P. dictyopteris, P flabellivenium P. minusculum. P. setigerum)。

丙、胞子囊

胞子嚢群ノ位置・排列・形狀・ソノ他ハ又分類上ノ特性トシテ主要視セラレタルモノニシテ、圓形ニシテ裸出スルヲコノ屬ノ特徴ト見做サル、モ、例外ナキニアラズ。

イ、胞子葉。 多クノ種=於テハ營養葉ト胞子葉トハソノ形狀=於テ大差ナキモ中=ハ可成リ著シキ差異アリ、葉脈ノ狀態ノ異ル場合モアリ。METTENIUS², GLÜCK, GOEBEL²等=ヨレバ、羊齒類ノ胞子葉ノ營養葉ト異ル場合ハ短小・狭隘・分裂等ノ結果=因ルモノナルガ、Polypodium 屬ノ場合=ハ主トシテ狭隘=ヨルモノノ如シ。ソノ最モ著シキハ §§ Craspedaria 又ハ §§ Pleurogonium ト番セラル、モノ=シテ胞子葉ハ線狀ヲ呈シ葉脈モ亦退化ス。而シテ同一葉=シ

テ先端=胞子嚢群ヲ見ルガ如キ場合ニハ該部ノミ大イ=細ルガ如キ奇觀ヲ呈ス。§§ Aglaomorpha, §§ Psygnium モ亦兩型葉ヲ有スルヲ以テ設ケラレシ群ナリ。Drynaria 屬ハ屢 Polyrodium 中=編入セラル、屬=シテ兩型葉ヲ有スルモノナルガ、コノ中コノ性ナキ種(例、D. heracleum, D. coronans) ハソノ理由ヲ以テ Drynaria ヨリ離サレ、§ Drynariopsis トシテ寧ロ Polypodium 屬中=編入セラル、事アリ。斯ノ如キハ寧ロ不自然ナル試=シテ一般性ハ遙=Drynaria ノ性ヲ示ス。

以上ノ如キ特殊ナル類=編入セラレザルモノニシテ胞子葉ノ形狀ノ異形ナルモノ勘カラズ (例、P. incurvatum, P. dimorphum, P. iridifolium, P. pedunculatum)。故ニコノ性ノミヲ以テ分類スルノ必ズシモ正シカラザル事アルヲ知ルベシ。

ロ、形状。 葉上=於ケル胞子嚢群ノ形状ハ圓形ナルヲ特徴トスレドモ、多少細長キモノアリ。コレラニツキテハ PRESL 之ヲ詳論ス。コレラノ中最モ著シキハ Nervatio ctenopteridis ヲ有スル §§ Grammitis ニシテ、葉脈ニ沿ヒテ長キ線狀ヲナセドモ殆ド圓形ニ近キモノモアリ、後者ガ伸ビテ線狀トナレル推移型ヲ示セリ。Nervatio marginariae ヲ有スル §§ Synammia、N. doodynae ヲ有スル §§ Microgramma モ亦コノ性アリ、各種ノ推移型アリテソレラノ區別ノ困難ナル場合アリ。

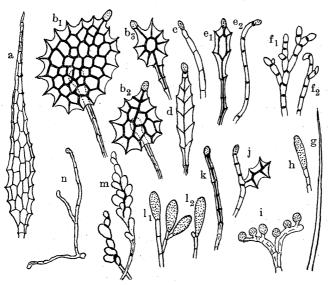
一方胞子嚢群ノ長形ナルハ他ノ方法ニョリテ起ル。即チ相隣接スル胞子嚢群ノ合着ニシテ Gorbel²ノ所謂"Coenosorus"ノ名アリ。ソノ著シキハ Nervatio doodynae ヲ有スル §§ Loxogramme、N. anaxeti ヲ有スル §§ Selliguea ニシテ、長キ蟲様狀ニ連ル胞子嚢群ノ中ニ尚圓形ノ原型ニ別タル、推移型ヲ示ス。

ハ、側絲 (Paraphyse)。 羊歯類ノ胞子嚢ハ幼時種々ノ 方法=ヨリテ 保護セラル、モノニシテ、ソノ最モ 普通ナル 包被 (Indusium) ハ Polypodium 屬ニ 缺クヲ以テ他ノ方法=ヨリテ保護セラル。側絲ハソノ目的=副フモノニシテ或種ニテハ極メテヨク發達ス。コレ胞子嚢間ニ 於ケル毛ニシテ、ソノ 形狀・多寡等ハ種ニヨツテ著シク異リ(第 11 圖)。

(一) 傘狀側絲。 側絲中最モヨク發達セルハ鱗毛狀ヲ呈スルモノニシテ、之ヲ以テ胞子囊群ヲ蔽フヲ得ベク、コノ性ヲ有スルモノハ元來 § Pleopeltis ト稱セラル。斯ノ如キ鱗毛ヲ有スル種ハ獨リコノ形ノミナラズシテ尚他ノ形即チ絲狀ノモノヲ共有スルモノニシテ、コレラニ 闘シテハ GLÜCK, BUSCALIONI, GOEBEL® 等 Polypodium 屬及ソノ他ノ種ニ見、予モ亦カ、ル好例ヲ見タリ。

鱗毛ハ莖・葉ニアルモノニ類スル構造ヲ示シ、本體ハ柄ニ直交シ、一般ニ小形

ナルニ反シ 柄ハ長クシテ 所謂傘狀ヲ呈ス (同圖b)。コノ柄ノ部ハ 胞子嚢ノ存 スル所ニ位シ以テ本體ヲ胞子囊表面ニ持チ上グルニ至ルベシ。本體ハ廣披針形 ナレドモ圓形ニ近キ場合アリテ中肋部ヲ認メザルモ、腺細胞ノ存在ニヨリテソ ノ長軸ノ方向ヲ知リ得ベシ。コノ鱗毛ニ楯狀・心臓狀ノ別アル事莖ノ場合ノ如 ク、通例兩者ハ混在ス。而シテ楯狀ノ場合ニハ柄ノ附着點ガ柄ノ方ニ凹ミテ漏 斗狀ヲナス事尠カラズ、大形ノモノニ於テ殊ニ著シ(例、P. chrysolepis)。尚 兩型ヲ共存スルトキハ胞子嚢群ノ中央ニ位スルモノハ楯狀、邊緣ニ位スルモノ ガ心臓狀タル傾向アリ。コレラノ細胞膜ノ性質ハ略莖ノ鱗毛ノ場合ニー致ス。 葉面=鱗毛ヲ密生スル種 (§§ Lepicystis, §§ Marginaria) ハー般 =コノ種ノ側



第 11 圖 胞子嚢間/側絲/比較 (×5)

- a. P. piloselloides L.;
- c. P. solidum METT.;
- e. P. megalophyllum Klf.; f. P. squamulosum Klf.;
- g. P. peruvianum Desv.;
- i. P. graveolens Bak.:
- k. P. dictyopteris Mett.;
- m. P. longissima Bl.;
- b. P. accedens Bl.;
- d. P. Swartzii BAK.;

- h. P. tamariscinum Klf.;
 - j. P. normale Don;
 - I. P. Merillii COPEL.;
 - n. P. vaccinifolium Langs.

絲アリ。葉面ニ比 較的疎ナル場合ニ モ胞子嚢群ニテハ 密生スル事アリ。 但シ葉面ニ鱗毛ヲ 有スレドモ該部ニ 之ヲ見ザル場合モ アリ。

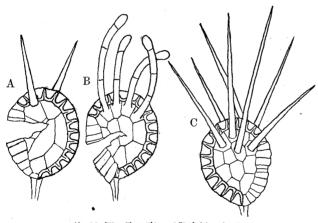
(二) 羽狀側絲。 之ハ本體ガ扁平ニ シテ披針形ヲ呈 シ、基部ノ次第ニ 細リテ柄トナル場 合ナリ(同圖a,d)。 コノ型ハ壺。葉ニ テハ甚ダ稀ナレド モ側絲ニハ普涌見 ラル、モノナリ₀ 而シテ心臓狀へノ 推移型ヲ示スモノ 多ク(同圖 b2, b3)

明カニ兩型ノ間ニ關係アルヲ示シ、又實際カヽルモノヲ混生ス。又一方ソノ幅 ガ次第=細リテ絲狀ヲ呈スル=至ル階梯ヲ示ス (同圖 e) (例、P. megalophyllum)。又傘狀ノ部ナクシテ 羽狀乃至ソレニ 類スルモノノミヲ有スルモノアリ

- (例、P. tectum, P. piloselloides, P. nigrescens, P. clathratum),
- (三) 棒狀側絲。 細長キ棒狀ニシテ二三列ノ細胞ヨリ成リ、多クハー個ノ腺細胞ヲ頂生ス(同圖k)。コレハ前型ノ尚一層退化セルモノト思ハレ、前型ト混在スル事多ク、尚專ラコノ型ヲ有スルモノアリ(例、P. percussum, P. dietyopteris)。
- (四) 毛狀側絲。 數個ノ細胞ガー列ニ 連レルモノニシテ (同圖 c)、前型ト混存スル事多ク、カヘル場合ニハコレラノ中間型アリ (同圖 e)。然レドモ專ラコノ型ノモノヲ有スル事アリ § Eupolypodium ニ多シ (例、P. sinuosum, P. scolopendrium, P. loxogramme, P. solidum, P. trichomanoides)。
- (五) 混形側絲。 以上諸型ノ變型又ハ共有型ト見做スベキ種々ノ型アリ。 P. vaccinifolium, P. squamulosum ニテハ枝狀ニ分枝スル毛狀ヲナシ(同圖 n, f)、P. longissimum, P. nigrescensニテハ分枝多クシテ葡萄狀ヲナシ(同圖m)、 §§ Adenophorus ニテハ葉面ニ 於ケルガ如ク頂ニ大形ナル腺細胞ヲ有シ(同圖 h, 1)、P. Gorgo, P. pendulum, P. graveolusニテハ腺細胞ニ白色體ヲ含有ス (同圖 i)。
- (六) 針狀側線。 單細胞ョリ成ル堅キ針ヲ胞子囊間ニ認ムル事アリ(同圖g) (例、P. rigescens, P. Sodiroi, P. celebicum, P. subsessile)。 P. muscoides ニテハ葉面ニ見シガ如キ毛狀細胞列ニ數個ノ針ヲ側生ス。尚葉面ニ針毛ヲ有スル種類ニ於テ、胞子囊群附近ノ針ハ特ニ鬱曲シテ該部ヲ半バ蔽フニ至ル傾向アレドモ胞子囊間ニハ存在セヌ場合普通ナリ。
- ニ、陷溝。 Polypodium 屬ノ胞子嚢群ノ基部ニハ特ニ 著シキ 胞子嚢群托 (Rezeptakulum) ヲ有セズシテ 各胞子嚢ハ直接葉面=附着ス。只多少該部ハ陷入シテ胞子嚢群ノ基部ガ半バ埋ルニ至ル傾向アリ。然レドモ或種=於テハコノ陷入ガ特ニ顯著ニシテ胞子嚢群ガ深ク弦=隱ルヽ事アリ、カヽル陷溝ハ胞子嚢群ノ保護トシテ役立ツモノトイフベシ。
- コノ陷溝=闘シテハ GOEBEL², GLÜCK ノ研究アリ、更=ソコニ毛又ハ鱗毛ヲ具ヘテ保護ヲ完全ナラシムル場合アリ (例、P. jubiforme, P. subauriculatum, P. verrucosum)。
- コノ陷溝ノ最モ發達セルモノハ §§ Cryptosorus ト稱セラレ、又コレト同型ノ 陷溝ハ §§ Thylacopteris ニモ見ラル。コノ陷溝ノ構成ニ次ノ如キ區別アルヲ認 ムベク、コレラノ間ニ亦推移型アリ。
- (一) 葉ノ裏面=小陷溝ヲ作ルト同時=ソレヲ界スル葉面ノ一部又ハ全周ガ 隆起シテ胞子嚢詳ヲ抱擁スル=至ルモノアリ、§ Eupolypodium =多シ(例、P.

khasyanum P. cryptosorum, P. celebicum, P. depressum, P. Ballivianii)。コレラノ多クノ種ニ於テハソノ隆起セル部ニ針毛アリテソノ陷溝ノ入口ヲ抱擁スル傾向アリ。

- (二) 陷溝著シク、葉ノ表面=影響シテ該面=丘狀ノ隆起ヲ作ル。ソノ著シキハ P. obliquatum, P. papillosum, P. stenophyllum 等=シテ §§ Cryptosorus ト稱セラレシー群ナリ。P. verrucosum, P. sinuosum, P. sarcopus, P. lanceolatum, P. longissimum =モ同型ノ隆起アレドモ、胞子囊群大形=シテ 陷溝部ハ繋狀ヲナシ保護ノ役トシテハ餘リ完全ナラザルモノノ如シ。
- (三) P. cucullatum = 於テハ陷溝殆ドナケレドモ葉面ガ折重リテ胞子嚢群 ヲ保護スルモノニシテ P. clavifer 等ト共ニ §§ Calymmodon 或ハ §§ Plectopteris ト 稱セラル、モノニシテ 明カニコノ性ヲ 示セドモ、P. muscoides, P. peruvianum モ亦コノ性ヲ示ス。



第 12 圖 胞子嚢ノ毛状突起 (×65)

A. P. caespitosum Mett.; B. P. puberulum Schl.-Cham.; C. P. Alfarii Chr.

himalayense ノ外ハ \$ Eupolypodium ノミニ之ヲ見ル。

柄=毛狀突起ノアル場合=ハ柄ノ一部ヨリー乃至二三本出ヅルモノニシテ概シテ短シ(例、P. zeylanicum, P. flabellivenium)。

胞子嚢壁=アル場合=ハ環帶=近ク、一本乃至八九本=達シ(第12圖)、中=ハ甚ダ長クシテ 2 mm =達スルモノアリ (例、P. sericeo-lanatum)。コノモ=二種アリ、一ハー列ノ敷細胞ヨリ成ル絲狀ノモノ(同圖B)(例、P. himalayense, P. puberulum, P. pseudaustrale, P. Martensii, P. truncatum, P. macrodon)

ーハ ー細胞 ヨリ成ル 堅キ 針狀ノモノ (同圖 A, C) (例、P. Alfarii, P. senile, P. cultratum, P. heteromorphum, P. caespitosum) ナリ。コノ絲狀突起ヲ有スル種ニテハ薬面ニモ同様ノ毛アリ、長ケレバ薬面ノモノ亦長シ。

第三、總 括

以上略記セシ條項ノ外=尚根ノ構成、胞子囊及胞子ノ形狀・大キサ、氣孔ノ分布、更=前葉體等モ比較スベキ重要項目タルベキモ、乾燥標本=テハ充分之ヲ 比較シ難ク、實際比較セシ種尠キヲ以テ兹=ハソノ記述ヲ略スル事トセリ。

以上述べシ諸條項=關シ、之ヲ總括略言スレバ次ノ如シ。

- 一、 莖ノ腹背性。 Polypodium 屬ノ莖ハ横臥スル根莖ニシテシカモ腹背性 著シク、ソノ性ハ獨リ外觀ノミナラズ內部構造即チ中心柱ノ構成上ニモ及ビテ 腹背性有孔網狀中心柱タリ。然ルニ § Eupolypodium ノ多數ノ種ハ根莖短小ニシテ葉ハソノ上ニ密叢シテ腹背性不顯著トナリ、中心柱上ヨリ見テ全ク放射型ナルモノアルヲ知リ、且管狀中心柱ニシテ有孔セラレザルモノヲ認メ得タリ。即チ腹背性ハ Polypodium 屬ニ於ケル嚴然タル特徴ニアラズ。蓋シ羊齒類ニ於ケル莖ノ放射性・腹背性ニ關シテハ議多シト雖モ、予ハ放射性ヲ原型ト 考フルモノニシテ、小形ナル § Eupolypodium ニ於テハ初メ放射狀ノ莖ヲ有シタルモノナルベク、之ガ横臥スルニ至リテ腹背性ガ中心柱ニ及ビ、遂ニコノ性ガ固定セシモノト考ヘラル。蓋シコレ着生性ニ基クモノナラン。
- 二、莖ノ中心柱。中心柱ハ通例背腹性有孔網狀中心柱ナリト雖モ & Eupolypodium ニハ然ラザルモノ多シ。即チ純粹ノ管狀中心柱タルモノ、背腹性ノ管狀中心柱タルモノ、純粹ノ網狀中心柱タルモノ、背腹性ノ網狀中心柱タルモノ、純粋ノ網状中心柱タルモノ、背腹性ノ網状中心柱タルモノ、神腹性ノ間チ是ナリ。尚早田教授ノ & Micropolypodium ハ有髓原生中心柱ナリトイフ。網狀中心柱が管狀中心柱ヨリ誘導セラレシ事ハ一般ニ認メラル、假説ニシテ、コノ變化ハ莖ノ増大ニ伴ヒテ起ルモノノ如シ。即チ小形ナル & Eupolypodium ニ管狀中心柱多キハ之ヲ示スモノナラン。中心柱ノ有孔性即チ薬除ニアラザル除ノ存在ハ最モ多クノ種ニ見ラル、モノナルガ、之ヲ有セズシテ全ク薬除ノミヲ有スルモノアル事前述ノ如シ。蓋シコノ有孔性ハ中心柱ノ減量ヲ示スモノニシテ蓋シ着生性ニ基クモノナラン。即チ着生莖タルタメ水ノ供給尠ク、ソノタメニハ少量ノ中心柱ニテ間ニ合フベシ。要スルニ中心柱ニモ諸型アリテシカモソノ間ニ各柱ノ推移型アリ。故ニ中心柱モ亦嚴然タル分類ノ標準トナシ難キ事アリ。
- 三、 莖ノ厚膜組織。 莖ニ於ケル褐色ノ 厚膜組織ノ有無・分布ハ他ノ性質程 重要ナルニアラザレドモ素ヨリ有意義ノ特性タリ。他ノ羊齒類ニ於テハ或科或

ハ或屬=夫々特有ノ厚膜組織ヲ見ルモノナレドモ、Polypodium 屬=於テハソノ有無•分布ノ狀態全ク不規則ニシテ如何ナル分類的關係アルカヲ知リ難シ。モシコノ有無又ハ分布ノミヲ以テ分類スレバ、從來ノ分類系ハ全ク破壞セラルベシ。

四、 莖ノ毛。 根莖=ハ鱗毛ョク發達シテ之ヲ蔽フ。蓋シコレ着生性=因ルモノニシテ過分ノ蒸發ヲ防グニ效アリ。根莖ノ毛ノ大部分ハ鱗毛ニシテ楯狀・心臓狀ノ別アリ、又心臓狀ガ不完全ニシテ羽狀ヲナスモノアリ。然レドモコレラノ區別ハ絕對的ニアラズシテ中間型アリ、又ソノ三型ノ分布狀態ニ嚴然タル境界ヲ設ケ難シ。蓋シ羽狀ノモノノ基部ガ膨レテ心臓狀トナリ、ソノ基部ノ兩瓣が癒合シテ楯狀ヲナスニ至リシモノナルベク、又鱗毛ガ單純毛ョリ發達セル事ハ諸家ノ一致スル意見ナルヲ以テ、楯狀鱗毛ハ最モ發達セル毛トイフベシ。Polypodium 屬ニ於テハ單純毛ト鱗毛ノ變遷ヲ示ス好例ニ乏シキモ胞子囊間ニアル側絲ニソノ好例アリ。鱗毛ノ形狀・周邊ニ於ケル狀態・腺細胞等ハソノ分布狀態區々ニシテ、種ノ特徴ニシテ或群ノ特性トハ見做シ難シ。

§ Eupolypodium ノ或種ニハ鱗毛ノ先端ニ特異ナル腺細胞或ハ針ヲ見ル事アリ、シカモカ、ル種ニハカ、ル細胞或ハ針ヲ直接莖面ニ見ル事アリ。コノ場合ニハ鱗毛本體ノ全ク退化セシモノナリト考ヘラル、事實アリ、又同時ニ逆ニコノ種ノ細胞ノ基部が發達シテ鱗毛本體トナリシトモ考へ得べシ。即チコノ種ノモハ純粹ナル單純毛ト異ルモノノ如シ。

純粹ノ單純毛ヲ有スルハ P. flabellivenium ノ根莖ナリ。可成リ大形ノ毛ニシテ以上ノ絲狀突起トハ趣ヲ異ニスベシ。尠クトモコノ點ニ於テコノ種ハ他ト異ルモノトイフベシ。故ニコノ種以外ノ場合ニ於テハ毛ノ性質ヲ分類ノ根本標準トナシ難キ事アリ。

五、葉ノ關節。葉柄基部ノ關節スルハ Polypodium 屬ノ特徴ノートシテ指示セラル、所ナルガ、コノ性ハ必ズシモ常ニ然ラズシテ關節ノ明カナラザルモノ又ハ全ク示サベルモノアリ。故ニコノ性亦必ズシモ Polypodium 屬ノ嚴然タル特徴トイフベカラズ。

六、葉柄中心柱。葉柄=於ケル中心柱ノ數及ビ排列ハ種=ヨリテ多少異ナル觀アレドモ、ソハ葉柄ノ大小=基ク差異=シテ、ソノ本質ハ凡ソー型即チうらぼし型= 歸スルモノノ如シ。然レドモ コノ型ハ 本屬ノミ= 見ラルヽ=アラズ。只 § Loxogramme ノ各種=於テハソノ弧狀排列ガ淺キ弧狀ヲナス傾向アレドモ、コレトテモ嚴然タル區別點トナシ難キモノノ如シ。

七、葉脈。葉脈ノ狀態ハ甚ダ多様ニシテ、コレガ古來分類ノ根本標準トシ

テ採用シ來レルモノナルガ、各型/間=ハ中間型アリテソレラノ間=嚴然タル境界ヲ設ケ難キハ既= METTENIUS 等ノ 詳論セシ所ナリ。即チ游離葉脈ヲ特徴トスル § Eupolypodium =於テモ往々脈枝ノ癒合スル場合尠カラズ。故=葉脈=ヨリテ大體ノ分類ヲナスハ素ヨリ可能ナリト雖モ、常=必ズシモ然ラズ。

六、葉ノ毛。葉柄及葉身面ニアル毛ハ多クハ幼時ノミニアリテ成長ト共ニ 脱離スルヲ普通トスレドモ、尚種ニヨリテ之ヲ多量ニ見ルベシ。葉ノ毛ニ鱗毛・ 單純毛・針毛ヲ區別スベク、後二者ハ莖ニテハ稀ナルガ葉ニテハ可成リ廣ク分布 ス。羊歯類ノ大部分ニ於テハ鱗毛ト單純毛トハ分類上ノ重要ナル標準トシテ主 要視セラレシ所ナルガ、Polypodium 屬ニ於テハコレラガ混在シ必ズシモ標準 トナラズ。

葉ニ針毛ヲ有スルハ & Eupolypodium ノ種ノミナルガ、カ、ル種ニ於テモ莖面ニハ鱗毛ヲ具フ。而シテカ、ル種ノ鱗毛ニハ必ズシモ針狀附屬物ヲ有スルニ非ザレドモ、莖ノ鱗毛ニ針狀突起ヲ有スル種ニテハ少數ノ例外ヲ除ケバ葉面ニ同形ノ針アリ。而シテ鱗毛ニ分枝セル針狀突起ヲ有スル種ノ葉ニハ分枝針ヲ具フルヲ以テ、莖・葉ノ針モニハ密接ナル關係アルヲ知ルベシ。

七、 胞子嚢群。 胞子嚢群ノ葉面ニ於ケル排列ハ葉脈ニ支配セラル、事多ク 通例圓形ナレドモ、尙葉脈ニ沿ヒテ細長クナル場合或ハ連合シテ細長クナル場 合アリテ、コレラノ極端ナル場合ニハ甚ダ著シキ特徴ヲ示スモノナレドモ、實 際ニハコレラノ中間型アリテソノ間ニ嚴然タル界ヲ設ケ難シ。

胞子囊群ニハ包被ヲ缺クモノナレドモ之ヲ或程度マデ保護スルハ必要ナル事ナルヲ以テ種々ノ保護法講ゼラル。即チ胞子囊間ニ長柄ノ傘狀鱗毛アルハ最モ有效ノ保護法ノーナリト雖モ、コレハ側絲ノ變化セルモノニシテ、シカモ傘狀ヨリ羽狀ヲ經テ絲狀ヲ呈スルニ至ル各種ノ推移型ヲ見ル。故ニコノ鱗毛ノ存在ガ分類ノ標準トシテ使用セラレシ事アレドモ、ソコニモ嚴然タル境界ヲ設ケ難シ。而シテ胞子嚢間ニアル側絲ハ葉面ニアル毛トソノ構成相類スルヲ以テ、側絲ハ葉面ノ毛ガ殊ニ該部ニ於テ發達シテ保護ノ用ヲナスモノト見做スベシ。側絲ハ單ニ胞子嚢間ニ見ラル、ノミナラズ胞子嚢ノ柄ニアリ、更ニ著シキ時ハ胞子嚢ソノモノニ見ラルベク、毛狀或ハ針狀ヲ呈ス。コレラノ分布狀態亦甚が區々タリ。

又胞子囊群ノ保護トシテ葉面=陷溝ヲ示ス事アリ、著シキ時ハ葉ノ表面ガ丘 狀=隆起シテ特異ナル形狀ヲ呈スレドモ、コノ性モ亦中間型アリテ嚴然タル分 類上ノ標準トナシ難キ場合アリ。

八、 Polypodium 屬ノ分類。 以上ノ諸觀察=基キテ Polypodium 屬ノ分類

=ツキー言セントス。此屬ノ自然群=アラズシテ聚合屬タル事ハ多クノ學者ノ一致スル意見=シテモ予モ亦之ヲ認ム。故=之ヲ自然群=分ツベキ種々ノ分類法ノ企圖セラレシハ當然ナリト雖モ未ダ之ガ完全=分類セラレシヲ聞カズ。シカモソノ分類法タルヤ甚ダ不完全ナル場合尠カラズ。如何トナレバ或一ツノ特性ノミヲ標準トシソノ性ヲ有スルモノヲ撰擇シテ一群トナス分類法=據レルヲ以テナリ。素ョリソノ特性ノ殊=顯著ナル場合=ハソノ一群ガ自然群ナル如ク思ハルレドモ、實際ハソノ特性ノ不顯著ナル或ハ他ノ特性トノ中間型アリテソノ群ヲ他ト嚴然=分チ難キ事アリ。況ヤソノ特性ノミヲ顧慮シテ他ノ形質ヲ省ミザル場合=於テハ之ヲ自然群ナリトナスノ却ツテ不都合ナル場合アリ。斯ル傾向ハ單= Polypodium 屬ノミナラズ他ノ羊齒類=モ遍ク見ラル、所=シテ、羊齒類ノ分類ノ朝令暮改ナルハ顯花植物ノ比=アラズ。

然ラバ予ガ兹=試ミシ如ク、從來餘リ省ラレザリシ諸形質ヲ考慮=入レテ分類スレバ如何ナル結果=到達スルナラン哉。ソノ結果ハ最初=述ベタル如ク寧 ロ消極的ナリ。今或標準=ヨリテ設ケラレタル一群ノ種ヲ他ノ形質上ヨリスレ バ却ツテ二型以上=別ツベキガ如キ事尠カラズ。即チ甲ノ形質=ヨリテ一群ヲ 設ケタリトスルモ乙ノ形質ハ必ズシモ之ト一致セズ、モシ更=丙ノ形質ヲモ考慮スレバコレラノ關係甚ダ複雑トナル。Polypodium 屬=於ケル從來ノ群ヲ比較スレバ斯クノ如キ場合多ク、果シテソレヲ自然群ト認メラル、ヤ否ヤ決シ難キ事多シ。結局、多數ノ形質ヲ比較綜合シテ鞏固ナル分類法ヲ設ケ得ベキヤトノ予ノ企圖モ寧ロ徒勞=近カリキ。否、モシ斯クノ如ク簡單=分類シ得ルモノナラバ、敢テ今予ガ之ヲ試ムル迄モナク、先覺者=ヨリテ旣=良キ分類法ガ設立セラレ居リシ筈ナリ。

然レドモ、或特性ヲ有スル或一群ノ種ガ他ノ形質=於テモヨク相類スル場合無キニアラズ。斯ノ如キハ之ヲ自然群トシテー屬又ハ一亞屬トナスノ可ナリト思ハル、場合ナリ。只中間型アルヲ以テソノ一群ガ他ノ群トノ界ヲ嚴然ト別チ得ザル憾アリ。

予ガコノ結論ニ到達セシハ單ニ實際觀察セシ結果ニ基ケルモノナリ。故ニ予ノ結果ヲ兹ニ列記スレバ上述ノ事情ヲ最モ明瞭ニ示ス筈ナリ。然レドモ三百餘種ノ記載ニハ尚幾十枚ヲ要スベキヲ以テ之ヲー 々記載スルハ 割愛スル事トシ、二三ノ實例ヲ擧ゲテソノ一般ヲ示サントス。

§ Campyloneuron。 § Campyloneuron ハ Polypodiun 屬中特異ナル葉脈 Nervatio cyrtophlebii ヲ有スルモノノ稱ナリ。ソノ基本種 P. phyllitidis ニ就キテ見ルニ、根莖ハ横臥、背腹性有孔網狀中心柱、褐色厚膜組織塊散在、心臓

狀鱗毛、葉ハ根莖ノ背面=關節、葉身基部次第=細マリ、葉柄中心柱數條、うらばし型、裸出、葉質薄、葉面=稀=小心臓狀鱗毛ヲ有ス。コノ葉脈型ヲ有スルモノ=シテ以上ノ形質ト相一致スルハ P. latum, P. lapathifolium, P. decurrens, P. repens, P. leuconeuron, P. laevigatum = シテ、獨リ葉脈ノミナラズ他ノ形質=於テモ相類スルヲ以テーノ自然群ト見做シ得ベシ。然ル= P. sphenodes ハ根莖ノ鱗毛楯狀=シテ、P. repens = モ往々楯狀ナルヲ見ル。又、P. lucidum, P. amphostenon ノ諸形質ハ前述ノモノ=相一致スト雖モ、ソノ葉脈ハ定型的ナラズシテ多少 Nervatio goniophlebii ヲ示ス場合アリテ、コノ型ヨリ N. cyrtophlebii ヘノ變遷ヲ示スカノ如ク思ハル、點アリ。コノ點ヨリスレバコレラノ種ハ純粹ナル \$ Campyloneuron = アラズシテ \$ Goniophlebium > 中間 = 立ツモノトィフベシ。P. angustifolium = 至レバ更=\$ Goniophlebium > 性ヲ强ク加味ス。

\$\$ Cryptosorus 及 \$\$ Thylacopteris。 \$\$ Cryptosorus ハ游離葉脈ヲ有スルPolypodium 屬中、葉ノ裏面=深溝アリテソコ=胞子嚢群ノ埋没シ、ソノタメ葉ノ表面ノ丘状=隆起スルー群ヲ指スモノナリ。ソノ基本種 P. obliquatus = 就キテ見ル=、根莖短小、管狀中心柱、心臓状鱗毛、其邊緣及表面=針毛、葉柄叢生、細小、一中心柱、葉肉星狀細胞ョリ成リ間隙甚ダ多ク、葉面針毛、胞子嚢群深溝中、表面丘状突出ス。以上ノ諸形質ト相一致スルハ P. celebicus, P. khasyanum, P. cryptosorum ナリ。尚 P. cryptosorum ノ葉面=ハ針モノ外=毛状突起上=數本ノ針モヲ有スルモノヲモ共有スルモ、以上ハヨク一致セル自然群トイフベシ。然レドモ尚之=類スルモノアリ。P. multicaudatum ハ胞子嚢群ノ周リノ葉肉ガ裏面=持上リテ該群ヲヨク抱擁スレドモ表面=丘状=隆起セズ、又網狀中心柱ナリ。又 P. depressum, P. minusculum ノ胞子嚢群モ浅キ溝=埋レドモ、ソノ根莖ハ網状中心柱ヲ有シ且鱗モ=針状突起ヲ缺ク。コレラノ種ハ胞子嚢群ガ屋楕圓形=ナル傾アリテ屢 \$ Grammites =編入セラルレドモ、以上ノ形質上又 \$\$ Cryptosorus ノ性ヲモ共有スルモノトイフベシ。

P. papillosum ハ胞子嚢群ノ溝ガ著シク深クシテ表面=大ナル指狀突起ヲナスヲ以テ特= §§ Thylacopteris ヲ設立セル種ナリ。コノ性 §§ Cryptosorus ニ類スルモ、根莖ハ有孔網狀中心柱、褐色厚膜組織塊散在、鱗毛心臓狀、無針、葉柄中心柱三、葉肉薄、大間隙無キヲ以テ §§ Cryptosorus トハ著シキ相違アリ。

§§ Loxogramme 及 §§ Selliguea。 此ノ 兩群ハ網狀脈ヲ有スル Polypodium 屬ニシテ胞子嚢群ガ連合シテ線狀ニ細長ク連續セルモノガ平行ニ相列ブモノニシテ、後者ハコノ胞子嚢群線間ニ稍太キ葉脈アルヲ云ヒ、此ノ明カナラザルヲ

前者トス。§§ Loxogramme ノ代表種 P. loxogramme ニ就キテ見ルニ、根莖構 臥、腹背性明、腹背性有孔網狀中心柱、褐色厚膜組織ナシ、鱗毛心臟狀、葉柄ハ 根莖背面ニ、葉身下部次第ニ細マル、中心柱三、淺キ弧狀ニ排列、葉肉厚、星狀 細胞ヨリ成リ大間隙アリ、中肋ノ表面丘狀ニ隆起、葉面多細胞單純毛、胞子嚢 群線狀、葉ノ裏面=淺キ溝ヲ作ル。以上ノ形質ヲ備フル種ハ P. scolopendrium, P. parakense, P. dimorphum ニシテ、尚之ト類スルモ根莖鱗毛ノ基部ニ根毛 狀突起ヲ有スルモノニ P. parallelum, P. iridifolium, P. mexicanum アリ、尙 P. Raciborskii ハ葉柄中心柱數多ク、又葉ノ中肋面ガ裏面ニ突出スルヲ異ニス。 §§Selliguea ノ代表種 P. Féei ヲ P. loxogramme ニ比シテソノ相違點ヲ擧 グレバ、根莖鱗毛ノ 楯狀ナル事、葉柄中心柱數條ニシテ 圓弧狀排列ヲナス事、 葉肉ハ表面ニ無色ノ大形細胞(貯水組織)アリ裏面ニ特ニ大ナル間隙ナキ事、胞 子嚢群ガ太キ側脈間ニ線狀ヲナス事、ソノ附着點ガ葉ノ裏面ニ少シ降起スル事 ニョリテ、可成リ §§ Loxogramme ト異ル形質アルヲ示ス。之ト相類スルハ P. heterocarpum, P. macrophyllum, P. Wrightii, P. Elmeri ナンドモ、コレラノ 種ノ根莖ニハ褐色厚膜組織塊散在ス。又 P. Elmeri, P. heterocarpum ノ根莖鱗 毛ハ楯狀ナリ。P. caudiforme ハ以上ノ諸形質特=特異ナル葉肉ノ構造ヲ示セ ドモ、胞子嚢群ハ平行ナル側脈間ニアリテー列ニ點散シー線上ニ連續セズ、又 P. vulcanicum ハ二列=點散シ、且コレラハ 楯狀鱗毛ヲ有ス。コノ胞子嚢群ノ 形態=於テコノ二種ハ眞ノ SS Selliguea 性ナシト雖モ、他ノ形質上ヨリ見テ之 ニ編入スルヲ可トスベシ。即チコノ兩群ハ從來考ヘラレタルヨリモ尙遙ニ相異 ル自然群タリトイフベシ。

§§ Flabellivenia。 P. flabellivenium ハ § Eupolypodium ノートシテ擧ゲラル、モノナリト雖モ、ソノ形質ノ大イニ特異ナルモノアリ。根莖横臥、細小、單純毛ノミ、管狀中心柱、髓厚膜、葉柄ハ根莖ノ背面、細長、葉身腎臓形、中肋ナシ、細脈叉分、屢癒着、葉肉不規則細胞ヨリ成リ間隙ニ富ミ、胞子嚢群ハ中央先端近ク 數個、胞子嚢柄ニ毛狀側絲、葉面裸出。 以上ノ形質特ニ中肋ヲ缺ク事、莖ニ純粹ノ單純毛ヲ有スルハ他ノ Polypodium 屬ニ全ク見ザル處ニシテ、ソノ他ノ形質ヨリ見テ寧ロ獨立ノ亞屬又ハ屬トシテノ値アルベシ。 Christ ハ § Eupolypodium ノー群 Flabellivenia トシテ之ヲ擧ゲシガ、之ヲ亞屬又ハ屬トシテ用キルモ可ナラン。

以上ノ諸例ヨリ見ルニ Polypodium 屬ハ若干ノ自然群ノ聚合群ニシテ、其自然群ノ設立ハ古來屢試ミラレシ所ナリ。コレラ自然群中ニハ斷然ソノ諸形質上他ト區別スベキモノアリト雖モ、ソレラノ間ニ中間型アリテソノ群ノ嚴然タル

界ヲ見出スノ難キ場合多シ。蓋シ初メ若干ノ自然群アリシモノナランモ、コレラノ間ニ交配等ノ原因ノタメニ諸形質ノ混合重複セル種ノ生ゼシナラン。勿論一方ニ於テ、或形質が特ニ發達シテ大イニ趣ヲ異ニスルニ至リシモノアルベシト雖モ、他ノ形質ニ於テ必ズシモ他ト大ナル差異ヲ示サベル場合モアルベシ。而シテコノ考察ハ獨リ本屬ノミナラズ羊齒類一般ニモ適用シ得ベク、羊齒類ノ命名・分類ノ至難ナル所以ハ蓋シ兹ニ存ス。

主要參照文獻

Bachmann: Untersuchungen über die systematische Bedeutung der Schildhaare. Flora. 69. 1886.

Bower: The ferns. 1. Cambridge. 1923.

Buscalioni: Sui tricomi delle Felci con particolare riguardo alle parafisi. Malpighia. 1917.

CHANDLER: On the arrangement of the vascular strands in the seedlings of certain Leptosporangiate ferns. Ann. of Bot. 19, 1905.

Christ: Die Farnkräuter der Erde. Jena. 1897.

CHRISTENSEN (1): Index filicum. Kopenhagen. 1906.

Christensen (2): On the systematic position of Polypodium vulgare. Dansk. Bot. Arkiv, 5. 1928.

Christensen (3): Taxonomic fern-studies. Ibid. 6. 1929.

COPELAND: The oriental genera of Polypodiaceae. Univ. Calif. Publ. Bot. 16. 1929.

DE BARY: Vergleichende Anatomie. Leipzig. 1877.

DIELS: Polypodiaceae in Engler & Prantl's Nat. Pflanzenfam. I-4. 1902.

DURAND: Sporangial trichomes. Fern Bull. 14. 1906.

FÉE: Genera filicum. Paris-Strasbourg. 1850-52.

Gardiner & Ito: On the structure of the mucilage-secreting cells of Blechnum occidentale L. and Osmunda regalis L. Ann. of Bot. 1. 1887.

GLÜCK: Die Sporophyllmetamorphose. Flora. 80. 1895.

GOEBEL (1): Pflanzenbiologische Schilderungen. Marburg. 1889.

GOEBEL (2): Organographie der Pflanzen. 2. II Aufl. Jena. 1918.

Goebel (3): Morphologische und biologische Studien. IX. Ann. Jard. Bot. Buitenzorg. 36. 1926.

HÖHLKE: Ueber die Harzbehälter und die Harzbildung bei den Polypodiaceen und einigen Phanerogamen. Bern. 1901.

HOOKER & BAKER: Synopsis filicum. II ed. London. 1874.

Karsten: Morphologische Untersuchungen über einige Epiphytenformen der Molukken. Ann. Jard. Bot. Buitenzorg. 12. 1895.

KLEIN: Bau und Verzweigung einiger dorsiventral gebauten Polypodiaceen. Nov. Act. Leop.-Carl. Akad. Wiss. 42-7. 1881.

LUERSSEN: Die Farnpflanzen. II Aufl. Leipzig. 1889.

Mettenius (1): Filicum horti botanici Lipsiensis. Leipzig. 1856.

METTENIUS (2): Ueber einige Farngattung. I Polypodium. Abh. Senckenb. Naturf. Ges. 11. 1857.

METTENIUS (3): Ueber den Bau von Angiopteris. Abh. math.-phys. Cl. kgl. Sächs. Ges. Wiss. 4. 1863.

PARMENTIER: Recherches sur la structure de la feuille des fougères et sur leur classification. Ann. Sci. nat. Bot. 8-9. 1899.

Pelourde: Recherches anatomiques sur la classification des fougères de France. Ann. Sci. nat. Bot. 9-4. 1906.

Poirault: Recherches anatomiques sur les Cryptogames vasculaires. Ann. Sci. nat. Bot. 7-18. 1893.

Posthumus: On some principles of stelar morphology. Réc. Trav. Bot. Néeland. 21. 1924.

PRESL: Tentamen pteridographiae. Pragae. 1836.

Russow: Vergleichende Untersuchungen der Leitbündel-Kryptogamen. Mém Acad. Imp. Sci. St.-Peter. 7-19, 1872.

Tansley: Lectures on the evolution of the filicinean vascular system. New Phyt. 6-7. 1907-08.

THOMAE: Die Blattstiele der Farne. Jahrb. f. wiss. Bot. 17. 1886.

Walter: Ueber den braunwandigen, sklerotischen Gewebeelemente der Farne. Bibl. Bot. 3-4. 1890.

YAPP: Two Malayan 'Myrmecophilous' ferns, Polypodium (Lecanopteris) carnosum, and Polypodium sinuosum. Ann. of Bot. 16. 1902.

早田: 辛齒類=於ケル中心柱ノ分類學上ノ價值=就キテ. 植雑.四――四二.昭二―三.

(昭和十年八月稿 東京帝國大學理學部植物學教室)

and a second distriction of the control of the cont